



企画展「明治の学者の知の冒険 高橋金一郎氏の旧蔵書」 を開催します

岡山医学専門学校(現在の岡山大学医学部)の教授を務めた医学士、高橋金一郎(慶応2年生～大正8年没)の膨大な蔵書が没後に岡山市立図書館へ寄贈されましたが、そのうち100冊近い貴重書が昭和20年の岡山空襲の罹災を免れて現存しているので、その概要を展示します。

1 日時

令和8年5月21日(木)～7月5日(日) 毎週月曜日は休館
開館時間 10時～18時 (毎週木曜日は11時～19時)

2 場所

岡山市立中央図書館 (北区二日市町) 2階 視聴覚ホール前の展示コーナー

3 内容

高橋金一郎氏は、生前から膨大な書物の収集家として知られていましたが、没後に関係者の尽力で20,294冊が岡山市立図書館へ寄贈されました。その多くは戦災で失われましたが、それぞれ50冊近い洋書と和書からなる現存の書物には、医学の分野に限らず、語学、地誌、民族学、文学、法典、都市史、探検記など幅広い内容が含まれています。それらは高橋氏が狭義の医学を超えて人間存在を取り巻く社会、歴史、環境などの幅広い領域に関心をもっていたことをうかがわせます。会期中に「岡山市民の日」(6月1日)と「岡山空襲の日」(6月29日)を含むこの展示で、明治期に森羅万象を知り尽くそうとした「知の巨人」の足跡とその意義をたどってみます。

4 その他

関連の歴史講座

「高橋金一郎氏が収集した書物」 令和8年6月20日(土) 14時～16時

「岡山藩領の地誌書について ～「備前記」を中心に」 令和8年7月4日(土) 14時～16時

いずれも 会場:岡山市立中央図書館 2階 視聴覚ホール (参加自由、聴講無料)

講師:岡山市立中央図書館 主査学芸員 飯島章仁

【問い合わせ先】

岡山市立中央図書館 飯島・杉野 直通086-223-3373



おもな展示品

ローレンツ・ハイスター(著)

「外科学」1724年 ドイツ語

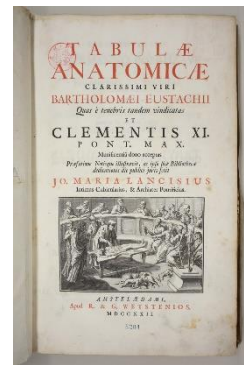
ドイツの解剖学者、外科医、植物学者で、杉田玄白と大槻玄沢が紹介し、江戸時代の西洋医学にも影響を与えたハイスター(ハイステル)の外科学に関する著書です。



バルトロメオ・エウスタキ(著)

「解剖学図譜」1722年 ラテン語

近代解剖学の基礎を築いた16世紀のイタリアの医学者の書物です。その解剖図をすべてまとめた決定版が1714年に刊行されており、これはその再版です。



いしまるさだよし
石丸定良(著)

「備前記」全9巻 原著:元禄17年(1704)
著者は農政に通暁した岡山藩士で、展示品は原著の翌年に作られた古い写本です。郡ごとに村々の位置、人口、戸数、石高、特産物、史蹟などが記されています。



川崎源太郎(著)

さんようきびのさきがけ
「山陽吉備之魁」(上道郡)

明治16年(1883)

上道郡西大寺付近の街の紹介書です。賑わう商店や街の様子が克明な銅版画で描かれています。



このほかにモンタヌス「日本誌」(1669年、オランダ語)、ケンペル「江戸参府紀行」(1732年、フランス語版)、「ナポレオン法典」(1808年、フランス語版)、「ペリー提督日本遠征記」(1857年、フランス語版)などの外国語の貴重書や、著者不詳「吉備前秘録」、同「備中村鑑」、小寺清先「備中名勝考」(文政2年)などの地誌書、「和蘭文典」「西音発微」「訳和蘭文語」などの西洋の言語に関する書物、「柳多留」などの文学書、山本真一郎「岡山県市町村区域三国全図」(明治22年)などを展示します。

あわせて、高橋金一郎氏に関する資料(本人の著書など)や、蔵書が没後に岡山市立図書館へ寄贈された経緯がわかる文献なども展示します。